

# 令和4年度 嶺北特別支援学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題は適切かどうか。  
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は適切かどうか。

(意見を聞いた方) ・特定非営利活動法人 ピアファーム 理事長 林 博文 氏  
・福井県嶺北親の会 会長 北村 春樹 氏  
・福井県立嶺北特別支援学校 PTA会長 平田 賢治 氏

(意見)

## 1・2・3・4・5. 教育課程、学習支援

・(小学部)一人一人の特性など、保育所などからの貴重な情報をしっかり把握しながら学習を進めており、保護者からも概ね良い評価が得られている。今後も無理させることなく一人一人のペースで学習を進め、児童がより興味関心を持てる内容を積極的に取りあげていくことで、児童と教師との信頼関係を深めていってほしい。

・(中学部)小学部から中学部へと大きな環境の変化に悩むことも多い時期であるため、教師と保護者、放課後等デイサービス事業所との間で丁寧に情報交換をしていくことが大切である。また、将来のことを考えたり働く体験をしたりする学習は、中学部段階から意識して取り組むようにするとよい。

・(高等部)現場実習など長期間の就労体験に当たっては、働くことの意味や学ぶことの大切さをしっかり理解し身に付けておく必要がある。仲間とともに一つの物を作り上げる喜び、チームワークやコミュニケーションの大切さなど、職場でも意思表示をしっかり行いながら人の輪に入れるように育てていくことがとても重要である。

・(寄宿舎)親元を離れての生活は、子どもたちにとって負担が大きいので、無理なく少しずつ泊まりの経験や生活スキルの積み上げができていくとよい。自分で何でもできるようになることに加え、仲間との寄宿舎生活の経験は貴重な思い出にもなる。

## 6. 健康・安全

・(健康)コロナ禍の感染症対策のうち、必要なことを精選して今後に生かしていけばよい。ケガの防止はもちろん、子どもたちが自分の体のことを知り、できる範囲で体調不良などを訴えたりできるようになるとよい。

・(安全)校内の安全を目的とした教職員対象の不審者対応訓練はとても大切である。また、子どもたちに対しても、自分の身を守るための指導を取り入れられるとよい。

## 7. 生徒支援、進路支援

・(生徒支援)学校行事は子どもたちにとって学校時代の大切な思い出になる。教師の創意工夫で子どもや保護者が笑顔になる取組を今後も続けてほしい。子ども自身が自己肯定感を高めていくことにもつながる。

・(生徒支援)教職員が高い人権意識で、子どもたちの人格や権利を尊重して関わることで、通うのが楽しい学校になってほしいと願う。その関わりは、その後さらに、子ども同士が互いを認め合う関わりにつながる。

・(進路支援)いくつかの企業や福祉サービス事業所がある中で、どのような仕事があるのか、自分はどんな仕事に向いているのかなど、生徒が現場実習に行く前にしっかり情報を得ながら臨むようにしてほしい。

## 8. 保護者・地域との連携

・ほとんどの保護者が子育てで悩んでおり、学校だけでなく放課後等デイサービス事業所や地域の方々でサポートし合う関係を築き上げていくことが大切である。

## 【学校関係者評価を踏まえた今後について】

学校関係者からは、特に「児童生徒一人一人の特性や思いに応じた丁寧な支援」や「感染症対策や工夫による安全・安心な教育環境づくり」、「児童生徒の意欲を高める学校行事の創意工夫」に対して、高い評価が得られた。いただいた御意見や課題については、管理職を中心に各学部学年や各校務部で検討し、「児童生徒や保護者、そして教職員も笑顔になる学校」、「地域とのつながりの中で学ぶ学校」を目指し、次年度の教育目標の設定及び教育実践に生かしていく。